

## 国盗り物語

黒田インターナショナル

黒田 毅

党綱領における民主主義という現実への参加は、地方行政と中央行政への選挙への参加を行い、部分勢力の形成と共に、民意を形成し、新しい国民勢力の形成と共に、実権の制圧を行う。

これらは選挙へ統一した党綱領と政策において未来の実現を約束し、それを英断と行動において実現することなのである。

これらは政治家が嘘を抱かないことにおける国民との聖なる約束である。

政治家の理想と行動は、国民との対等な対話を経て、未来を与えることができるのである。

これらは地方行政への参加と党基盤を全ての選挙への人員の参加において、可能とし、それら基盤は国政への参加を可能とできるのである。

これらは全ての地方行政の選挙区への参加を必要とし、その民意の形成と自己の施策は、約束として必ずその実現を義務とする。

統一綱領は、地方行政における新しい社会形成を行い、中央行政においては、世界における自己の確立と独立自立を実現する。